

庚寅歲晚雜詩（鈴木豹軒）

老後の文章 眞活計

乾坤 獨立 秋天 霽る

古今 何物か 是れ 英雄なる

人間に 向つて 奴隸と 為らず

老後文章眞活計 乾坤獨立秋天霽
古今何物是英雄 不向人間爲奴隸

解説 昭和二十五年の歳晚（大晦日）の作。退官後の独立自由の境地を歌っている。

語釈 ※文章Ⅱ詩。ここでは詩のこと。※眞活計Ⅱ眞の生活。「活計」は生計。※乾坤Ⅱ天地。※何物Ⅱどんな人物。※英雄Ⅱすぐれた人物。いつも自己を失うことのない、しっかりした人をいう。
※人間Ⅱ人の世。世間。※向Ⅱ詩では「於」の意。※奴隸Ⅱしもべ。下男。名誉・利欲などのために自由を失った人をたとえる。

通釈 老後に詩作にふけるのは、人生における眞の意義ある生き方である。天地の間において他の何ものにもわずらわされないこの自由な心境は、まるで秋晴れの空のように澄んでいる。古今を通じてどんな人がすぐれた人物であろうか。ない人間のことなのである。それは世間であって、欲望のためにその身を束縛されない人間のことなのである。